

各支部長様
各専門部長様

千葉県教職員組合中央執行委員長 渡邊 郁哉

子どもたちのためになる教育政策を、 教職員のためになる研修を求める！

千葉県教職員組合は11月8日、古川書記長をはじめとする中央執行委員及び各専門部と各支部の代表者の参加のもと、千葉県教育委員会と「教育政策・研修等に関する交渉」を行いました。

29項目・59点について具体的な要求をするとともに、学校現場の実態を訴え、改善を求めました。その中で船橋支部・安房支部の参加者から、学校現場の切実な状況を訴え、改善や見直しを求めました。

<県教委からの主な回答>

◇ちばっ子学びの未来デザインシートの抜本的見直しについて◇

○令和5年度の全校実施における成果と課題を踏まえ、「ちばっ子『学力向上』総合プラン（ダブル・アクション+ONE）」におけるチェック機能を果たす事業となっているか検証していく。

本事業は令和2年度より段階的に調査を行ってきた。4年目を迎える本年度、千葉市を除く全小中学校を対象に実施する。この全校実施による課題をしっかり精査してこれからのあり方について、今までのやり方でのよいのかも含めて、しっかりと検討し見直しをはかっていく。

◇部活動の地域移行について◇

○部活動の地域移行については、地域や学校の実態を把握した上で準備を進めていく。また、教員や生徒、保護者のニーズに寄り添いつつ、教員の働き方改革の視点で取り組む。

文化部活動の地域移行については、人材確保が大きな課題であり、現在、吹奏楽部指導者講習会を県の吹奏楽連盟と共催で開催するなど、指導者の確保に努めている。また、10月より文化部活動に関わるコーディネーターを1名、学習指導課に配置し、各市町村教育委員会等からの質問、相談に対応しているところである。現在、国からは土日のみの部活動地域移行について示されているところであり、平日については今後、国の動きを注視していく。

◇中堅教諭等資質向上研修 plus の廃止について◇

○教員免許更新制の発展的解消に伴い、中堅教諭等資質向上研修の修了者が専門研修を受講するまでの間に補足的に行う研修であると考えている。学校の中核を担っている対象の先生方には、本研修で学んだことを生かして今後も各校でリーダーシップを発揮してほしいと考えている。なお、負担軽減のため、オンラインでの受講としている。教員の研修は育成指標及び研修体系にもとづいて、キャリアステージに応じて実施するものとしている。今のところ廃止する計画はないが、教職員の方の意見等も十分参考にし、内容や開催方法を再度工夫しながら実施していくことを検討していく。

◇研修履歴システム「アストラ」の利用改善について◇

○研修履歴システム「アストラ」は、教職員一人一人が自らの資質能力の向上のため、いつでも研修履歴を振り返り、意欲をもって学び続けることができるようになるための環境づくりとして構築するものである。昨年度改定した育成指標においても養成段階における研修の重要性について位置づけており、学校現場で教育にあたる講師の方への研修を拡充している。臨時的任用講師についても、改定した育成指標にもとづいて研修履歴に反映していけるか検討していく。

交渉後、千教組を代表して古川書記長が、「私たち教職員は『学ぶ意欲』に満ち溢れています。ただあまりにも多忙な状況が、余裕のない状況が『自ら学ぼうとする意欲』を奪い去っているのではないのでしょうか。今までと同じことをしては、この苦しい状況を変えることにはつながらないのではないのでしょうか。我々もできることをしていきます。県の教育委員会でももう一度できることはないのか検討していただきたい。」と、力強く訴えました。

千葉県教職員組合は、交渉で確認したことを具体的に改善させるために、今後も県教委との折衝にとりくんでいきます。ご支援、ご協力をお願いいたします。交渉内容の詳細は後日発行の速報②を参照してください。